

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:62-63.

転倒転落予防における私の技

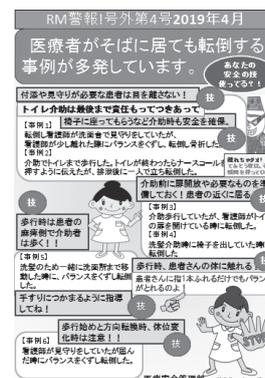
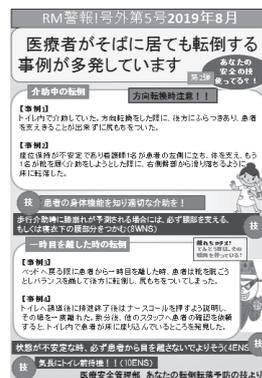
北川 佳奈子, 今野 真都佳, 林 達哉, 岩田 達也, 東 信良

「転倒転落予防における私の技」

旭川医科大学病院 医療安全管理部 ○北川佳奈子 今野真都佳 林達哉 岩田達也 東信良

取り組むべき課題や背景:転倒転落で外傷を負った場合、治療時間が非常に長くなる場合があり、患者さんの病状によっては人生が大きく変わる場合がある。入院患者の転倒転落要因は様々であり、当院は以前から転倒転落を減らすために様々な取り組みを行っていた。徐々に減少はしていたが、近年は転倒転落発生率が横ばいもしくは徐々に上昇していた。

医療安全文化の醸成に資する取組:転倒転落予防には依然より、転倒転落アセスメントスコアシートにて危険度Ⅱ以上は看護計画立案、踵のある履物の推奨、患者指導として「転倒転落予防ビデオ」を外来・病棟にて視聴し入院時に理解を確認、ベッド柵2点の標準化、ナースコール連動の安全機能付きベッド導入、センサー選択フローチャート等を使用し適切なセンサーを選択すること等を実践している。また、排泄に関連した転倒転落予防に関してポスターの標語を募集し啓発を図った。病院内を定期的に巡回し患者からの聞き取り・記録の確認・スタッフからどのように実施しているかを確認した。実施できていない場合には、継続して実施するように依頼した。しかし転倒転落の発生は続いており、発生率はやや増加傾向にあった。転倒転落要因のひとつである介助者がそばに居るにもかかわらず転倒転落に至っているのが全転倒転落件数の30%前後あった。今年度は、介助者がそばに居る転倒転落件数を減少することに着目し取り組んだ活動を報告する。今年度の転倒転落予防の目標としては、「医療者がそばにいる転倒転落を予防！」という目標を設定した。これについては、目標を院内へ周知すると共に、転倒転落における医療者がそばに居る場合の転倒転落を集計し分析した。事例と再発防止策を掲載したポスターを作成し、院内ラウンド時にどのような対策があるか聞き取りした。また、ポスターを元に「転倒転落予防の私の技」について、病棟内で2回検討することを依頼した。検討内容を提出するように依頼した。126の技の提出があった。また、8月に再度、事例と再発防止策についてのポスターを作成し、再度再発防止策について話し合う場を持ってもらうこととした。8月のポスターには、部署からの「技」をポスターの標語として使用した。



取組に対する評価:

今年度の転倒転落予防についての目標「医療者がそばにいる転倒転落を予防しよう！」については、病棟ラウンドにおいては、周知されており、目標の共有ができていた。更に、病棟における昼のカンファレンスや会議時に転倒転落予防「私の技」について検討することで、病棟における目標もおのずと設定することとなった。医療者がそばにいる場合の転倒転落は減少し、30%前後だったものが、10%台となっており、全体の転倒転落数も減少傾向である。今年度4月から8月の転倒転落発生率(転倒転落発生件数対入院患者延数)は0.91%へ減少している。

継続して転倒転落予防策を実施しており、2016年はトイレでの転倒転落予防の標語を募集した。今年度は、医療者がそばにいる場合の転倒転落予防について「私の技」を募集した。2016年度今年度とも、自分達が持っている技を振り返り共有することで転倒転落予防を更に啓発することとなったと考える。今後

ももてる技を活かし転倒転落予防に継続して取り組んでいきたい。

